新　聞　　第３種郵便物認可

厚さ30センチ■４層構造■低周波も減少

施設稼働音 パネル遮断

札幌・ヤブシタ「DC騒音対策に」

空調部材製造販売のヤブシタ（札幌）は、データセンター（DC）や蓄電所の騒音対策ビジネスに本格的に乗り出す。新開発した金属製パネルに、体感音量を8分の1に減らし、人には聞き取りにくい一方で不快感を感じることがある低周波音も劇的に弱める性能を持たせた。4月の販売開始を予定しており、需要の見込める北海道内をはじめ、全国での普及を目指す。

同社は遮音技術の開発に強みを持つ。人の耳に聞こえる音を半減させるパネルを手がけており、主に空調機器向けに道内外で採用実績がある。今回は全国を見渡しても高性能な製品を目指し、札幌市内の同社研究所で約1年かけて開発した。



データセンターや蓄電所の騒音対策として開発された遮音パネル（手前）。研究所で遮音性を測定する試験を重ねた（阿部裕貴撮影）

デジタル に 動画

パネルは、穴をあけたメッキ鋼板と吸音材のグラスウール、空気層、鉄板の4層構造。完成まで吸音材の材質や密度、空気層の厚みを変えた100パターン以上を試した。

この結果、従来製品は4センチだったパネルの厚さを30センチとした。線路の高架下に相当する100ヘルツの音を鳴らした部屋をパネルでふさぐと、低減が難しい低周波も含め、一般的な会話レベルに相当する60ヘルツほどまで減らせた。人の耳では、30ヘルツ減ると音の聞こえ方は8分の1程度になるという。

幅の異なる3種類を用意し、最も小さいのは幅1メートル、高さ50センチ。販売予定価格は20万円台から。蓄電所や太陽光発電所は、稼働する機器から低周波音が生じることがある。高い遮音性能が求められるため、今回の商品の導入を見込む。

また道によると、道内のDCは計画中も含め石狩や苫小牧など9市に計48カ所。道外のDC計画では、騒音への懸念もあって住民が反対運動を展開し、事業者が建設を取りやめた例もある。

こうした状況で、同社はDCも有望な納入先として想定する。開発責任者の山口哲太さん(36)は「騒音対策の需要を捉えながら、地域住民にとって快適な環境づくりに貢献したい」と話す。

ヤブシタは1963年設立で、冷熱関連部材メーカーを主体とするグループ16社からなるヤブシタホールディングス（札幌）の傘下企業。2025年3月期の連結売上高は約78億円。（加藤遥花）